

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100179		
法人名	有限会社 タムラ		
事業所名	グループホーム はこべ (B棟)		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	平成28年7月26日	評価結果市町村受理日	平成28年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所が平成17年9月でした。歳月が経つのは速いものです。開所前、地域の集会所にて地域の皆様に、事業所内容等々を説明させて頂きましたのが昨日のこのことです。利用者、御家族、地域との関わりを大切に、一斉清掃や幼稚園の運動会、おゆうぎ会、地区の春祭り、盆踊り、消防検閲後の寄り合いなど、多くのことにお招き頂き、「はこべ」「はこべ」と呼んで頂いております。個を大切に作るグループホームにおいては、自己決定の支援、生活スタイルを尊重、顔なじみの方々との繋がり、その人に寄り添う事を大切にしていくと共に、地域で在宅介護で頑張っておられる御家族様にちょっとしたケアのコツ、認知症の人との関わり方等を少しずつお知らせしたり、この事業所を認知症の勉強会の為に提供し、利用者、地域の方、スタッフが共に集える場があれば幸いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会の中で、理念についての話し合いを行っている。五つの理念を共有し、普段の業務の中で理念を意識しながら利用者様、ご家族を支援していけるよう、今後も常々、理念の確認を行っていききたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	はこべ祭と避難訓練の際には、地域へ一軒一軒お知らせを配っている。地域の方が踊りのボランティアに来てくれたり、普段も野菜等を頂いたり、幼稚園の運動会見学、お祭の子供神輿等々交流出来ている。近隣の方とは冬には雪かきなども協力合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な場は設けていないが、普段から相談があれば応じている。地域で支援が必要と思われる方の情報があり、ご家族やご本人と電話や面談で相談に応じたことがあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では様々な議題を取り上げている。避難訓練時の意見、看取りに対してや認知症の人の家族の思い、地域包括支援センターの役割、事業所行事に対する意見等、有意義な意見を伺っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年度が替わり介護福祉課の担当職員の変更があったが、分からないこと等は何でも質問できている。また介護相談員の受入れを実施しており、事業所を見て頂きアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や部内研修にて、身体拘束廃止についての意識を持てるように努めている。日中玄関は施錠せず見守りにて対応している。言葉での抑制にも注意し職員同士お互いに注意し、疑問に感じたことはユニットカンファレンス等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに高齢者虐待防止の勉強会を行っている。精神的虐待にあたらないか、言葉遣いなどにも注意している。新聞やニュース等の事例をもとに話し合いも常々行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会の勉強会で制度の大まかな内容について学んだ。現在制度を活用されている利用者様はいないが、必要性があれば制度の活用について関係者へ結び付けられるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、納得して頂けるようにしている。改定があった場合にも、随時、文書にて説明し承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは普段面会の際などに、意見を言って頂けるような関係作りに努めている。利用者のカンファレンスの際には、出来るだけ参加して頂くよう促し意見、要望を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員は意見を発しやすい環境であり、毎月の全体会議には代表者も出席している。ゴミ置き場の整備、クリスマスやこいのぼり、はこべ祭の飾り付け等を行ってもらった。行事外出や職員旅行についての意見交換も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人個人の状況を把握し、業務内容や勤務時間などの調整を行っている。個々の事情に合わせ、有給を取得したり、勤務状況を変化させたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に合わせ介護職員初任者研修、身体拘束廃止推進セミナー、出火防止セミナー、看取りについて、認知症サポーター養成講座等の外部研修を受講している。また、業務の中でのトレーニングや、月1回の勉強会等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は持てなかった。前回の課題として取り上げているが、なかなか実施できないのが現状である。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年と今年で4名の新規利用があった。認知症の意思表示が上手く出来なかったり、住み替えの認識が持てなかったり、それぞれに不安を抱えての入居となった。本人が安心できるよう十分に関わりを持ち、訴えに耳を傾けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困り事や不安がどんな内容なのか、十分に伺う様にしている。本人の認知症の症状や、事業所でできる対応について、ご家族の協力がどの程度得られるか等を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる範囲で情報収集を行い、ご本人やご家族の状況把握に努めている。必要があれば他のサービスも利用できるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来るところでは行って頂き、生活意欲の維持、向上に努めている。居室の掃き掃除、リネン交換、洗濯物たたみ、野菜の皮むき等を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、手紙、電話、外食等ご家族との繋がりがあがる。また、一緒に温泉旅行をされた方もいる。本人のご家族への想いを伝え、また、表情が生き生きとしたり食欲が出たり、ご家族が与える本人への影響についても報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来たり、希望があれば馴染みの商店へ一緒に買物に行ったりしている。また、生活歴の把握に努め、馴染みの人や場所の話題も取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方、そうでない方がおられるが利用者様同士声を掛けあったり、気遣ったりと良い関係が出来ている。寝たきりの方を気遣い職員と一緒に訪室して下さる方もいる。関係が浅い場合は特に注意して観察し、状況に応じ職員が間に入るようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも、町で会った際に声を掛けて下さったりホームへ遊びに来られたりしている。野菜を届けに来て下さったご家族もいる。情報交換し、必要があれば相談、支援を行うようになっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が重度になり、意向の把握が困難な場合も多い。担当となっている介護職員を中心に表情や仕草などから読み取り、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に新しい利用者様には多く関わり、ご家族からも生活歴などを伺うように意識している。また、ご家族や地域の方等からの新たな情報があれば職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	傾眠傾向が強くなった方は離床のペース、昼夜逆転傾向がある方は日中の活動量、咀嚼嚥下機能低下が見られてきたら食事形態等、現状に合わせてそれぞれ随時見直している。字を書いたり家事仕事など、できることの発見にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一度、介護計画を見直している。担当介護職員が本人の現状を把握し、ご家族にも参加を促し、出席者で課題とケアのあり方について話し合っている。今年度から、看護師が加わり身体状況の面でも、より専門的なアドバイスをもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、漫然としたものになってしまいがちである。利用者の個別ノート、申し送りノート、ケアチェック表等も併せて活用している。毎月のモニタリング記録にて振り返りと計画見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り介護の際や体調不良時等のご家族の付添い宿泊に対応している。また、面会や利用者様との外出時の送迎をできる範囲で行っている。ニーズが発生した場合は、可能な範囲で支援していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園から運動会やおゆうぎ会の招待を受けて外出している。馴染みの店では安心して買い物したり、お茶をごちそうになったりしている。馴染みの美容師さんや野菜直売の方に訪問して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の方が、入居時にかかりつけ医を事業所の協力医療機関へ変更されている。協力医療機関とは連携が図れており、訪問診療や往診、外来受診等適切な医療が受けられている。協力医療機関以外の受診は、原則としてご家族に対応をお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度から看護師が非常勤で配置になっている。利用者様のちょっとした変化などもすぐに報告でき、必要時は夜間でもいつでも報告し指示を受けられる為、大きな安心に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の必要がある場合は、主治医の紹介状を得て適切な医療機関に入院出来るようになっており、退院の際にも十分に情報交換を行い、本人、ご家族の不安軽減に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	どのご家族にも入居契約時に、看取りの指針の説明を行い、終末期の方針について考えて頂くようお話ししている。病院とは違い事業所で出来る事、出来ない事を説明し、入居後も定期的、随時に意向の確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の際に誰でも対応できるように、職員同士で日頃の業務の中で話し合っている。事故発生時の応急手当や訓練は実施できていなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	避難訓練、通報訓練、消火訓練を行った。地域の方も実際に訓練に参加して頂き、意見交換を行った。訓練に向けて職場内での防災の意識も高まり、防火管理者を中心に何度も避難方法の確認や話し合いを行い、全体会では実際に代表が寝たきりの利用者役となり避難方法を検討した。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いやちょっとした対応が、馴れ合いや忙しさから雑になってしまう事がある。人格の尊重、誇りやプライバシーの確保、などの程度認識しているか、普段の業務の中で意識しているかを改めて確認していきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が重度になり思いの表出が困難になってきている方も多いが、ご本人との関わりの中から、思いを汲み取れる様努めている。特に担当の介護職員は利用者様の代弁者となれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の流れの声掛けは行いが、本人の意欲を尊重している。居室で読書をしたり好きな縫い物を行ったり、玄関先で外気浴したりとそれぞれ本人のペースで行っている。生活意欲の低下とならない様注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせ支援している。化粧水や乳液を使用できるよう準備したり、鏡やブラシを見えやすい所に置いたり、身だしなみの関心がなくなっている方には、随時声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	頂いた野菜や山菜のゴミ取りや皮むきを皆で一緒に行っている。食事介助が必要な方が増えた為、職員も一緒に食事を取ることが難しくなっているが、傍で声掛けや話題提供を行い、雰囲気作りしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態や量を検討し提供している。食事水分の摂取量が低下している方には好む物を提供したり、摂取時間をずらしたり、介助方法を変えたりと工夫している。必要によりご家族、主治医に相談し、栄養補助飲料で栄養摂取されている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状況に合わせた口腔ケアに努めている。自分で出来る方には声掛け、見守り、状態に合わせ、一部、または全介助、口腔ケアシートにて清拭介助等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの身体状況を十分に観察し、できる限りトイレでの排泄が出来るように支援している。排泄のリズムを把握し定時、随時にトイレへ案内している。尿意や便意を伝えられない方のサインを見逃す事の無い様に観察している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を確認し、排便が見られない時には冷たい牛乳を提供したり、下剤の服用状況の検討を行っている。また、少し長く便座に座って頂いたり、マッサージを行ったりして排便促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けし、入浴の希望がある方はできるだけ希望通りに対応している。職員とお話したり、歌を歌ったりゆっくりと楽しませている。身体状況が重くなった方は、職員二人で入浴介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況を観察し、傾眠傾向が強い時にはベッドにて休んで頂いている。昼休みをされている方も多く、昼夜逆転とならない様に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の服薬情報箋、お薬手帳、アセスメント用紙にて、直ぐに服薬内容が確認出来る様になっている。薬変更の際には、何の薬か、副作用や注意点などについても確認し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割があり、洗濯物たため、野菜の皮むき、お膳拭き、おしぼりタオル干しなどをされている。誕生月には、希望を聞き誕生会のメニューを決めている。普段も、カラオケや散歩、外気浴等にて気分転換の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の買い物の際に、一緒に外出し買物を行うことがある。町内のドライブや、花見、お祭り見学等の行事外出を楽しんでいる。ご家族との外食や、泊りで温泉に行かれた方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、自分で少額のお金を持たれている方もいる。その方の希望と状況に合わせて支援している。以前は数名の方が持たれていたが、現在はお一人のみである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙に職員と一緒に返事を書き、やり取りされている方がいる。書ける方は年賀状や暑中見舞いを送られている。自ら電話をするのは難しくなっており、希望時は職員介助にて掛けられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファコーナーの大きな窓から、町内の自然の景色を観ることが出来る。ホーム内には季節の花を飾ったり、入居様が塗った季節に合わせた塗り絵を飾ったりと、季節感の工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル、ソファ、畳コーナーなどで、利用者様同士で話をしたりして、それぞれの場所で過ごしている。玄関先で外気浴をしたり、ホーム内の大きな窓から外を眺めたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時に自宅より持参された家具を使用していたり、昔から読まれていた本を本棚に置いていたり、馴染みの物を活かした居室になっている。写真を飾ったり、自分好みの飾りつけをしたり、鉢植えを育て楽しんでいる方もいる。読書好きな方には居室でゆっくり読書ができるよう、一緒に読書スペース作りをした。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きい字の見やすいカレンダーを置いたり、トイレに張り紙をしたりして、分かることを引き出す工夫をしている。		